

岩熊力也展 charisma

Iwakuma Rikiya Solo Exhibition “charisma” (かりすま)

2015年1月6日(火) - 1月18日(土) コバヤシ画廊企画室

関係者各位

時下ますますご清祥の事と存じます。

いつも大変お世話になっておりまして誠に有り難うございます。

この度、年明けの恒例の岩熊力也展 「charisma」(かりすま)を開催致しますので、ここにお知らせします。会期は2015年1月6日(火) - 1月17日(土)です。

岩熊の絵画は、デビューの頃から木枠に張った透過性の高い布を支持体としていますが、近年はアクリル絵具で描いた画面を水で流しながら制作する独特の手法を用いています。

今回は近年に発表した「LAUNDRY」、「Weight」シリーズ同様、木枠を用いずリネンのみを用いています。歴史上の有名無名の人物の肖像画を描いたりネンを、洗濯物の様に会場内に吊るした「LAUNDRY」。今年発表された「Weight」は太平洋戦争の出来事を題材に取り上げ、ワンピースや船をリネンで象ったインスタレーションでした。

今回は、「charisma」というタイトルの絵本を作り、その絵本を大きなリネン上に展開したものを11着の洋服に仕立てた作品や、絵画を中心に構成されたインスタレーションを発表いたします。

どうぞ送らせていただきました資料をご査収の上、貴社刊行の出版物にご案内御掲載をご検討頂ければ幸いに存じます。

コバヤシ画廊企画室



charisma 2015 展示イメージ



charisma 2015

■展覧会一般情報■

展覧会名 岩熊力也展「charisma」

会 期 2015年1月6日(火)ー1月17日(土)
日曜休廊・祝祭日開廊

開廊時間 A.M.11:30ーP.M.7:00
但し最終日は5時まで

※初日午後5時30分よりレセプション

会 場 コバヤシ画廊企画室
東京都中央区銀座3-8-12 ヤマトビル B1
TEL03-3561-0515 FAX03-3561-7859
HP <http://www.gallerykobayashi.jp/>
E-Mail kbysg@gf6.so-net.ne.jp

■作家略歴■

岩熊力也 Rikiya IWAKUMA

1969 東京に生まれる
1990 日本大学芸術学部映画学科中退
1997 Bゼミスクーリングシステム修了
2004 ポーラ美術振興財団国際交流プログラム(メキシコ滞在)
2009 リトアニアに滞在。制作
1996年よりコバヤシ画廊他で個展多数
2011
「Gas station Hamburger Queen」第一生命南ギャラリー、東京
「EL RIO DE LA LLUVIA」 BIBLIOTECA HENESTROSA、メキシコ
2013 第一生命南ギャラリー、東京
2014 連続企画個展「バランブセスト」(北澤憲昭企画)

主なグループ展

1999 「INDEX」セゾンアートプログラム・ギャラリー、東京
2000 「第16回平行芸術展」エスパス OHARA、東京/
2000 「INDEX」セゾンアートプログラム・ギャラリー、東京/
「MESSAGE」コバヤシ画廊、東京 [以降毎年出品]
2002 「VOCA展2002」上野の森美術館、東京/
2007 「「森」としての絵画」岡崎市美術博物館、愛知/
2008 「VOCA展2008」上野の森美術館、東京<大原美術館賞>
2009 「RAIN MEETS THE SUN」 M-Zilinskas Art Gallery、リトアニア
2011 「アーティストファイル」新国立美術館、東京
2012 「El vacío y el paisaje」 Galeria AP. ハラバ、メキシコ/
「La vida y la muerte, sus intermitencias」 Antiguo colegio jesuita de patzcuaro. バツクアロ、メキシコ

パブリックコレクション 大原美術

個展「charisma」に寄せて

主はサタンに仰せられた。「おまえはどこから来たのか。」サタンは主に答えて言った。「地
 を行き巡り、そこを歩き回って来ました。」 —ヨブ記

災害は常にこの列島に住むものたちと共にあった。人々はその記憶を妖怪や靈異に託し
 物語として後世に伝えた。また地名に深く刻み込んだ。しかし私たちは忘れてしまった。
 物語や地名の奥にひそむものへの想像力も知恵も手放して久しい。そして途方に暮れる。
 いまでも災害が起これば記憶を風化させてはならないと声はあがる。しかし私たちの前
 には文化的な背景も意味も理解しないままに仮装してはしゃぐハロウィーンの群れが通
 り過ぎるばかりだ。楽しければよい、美しければよい。そんな気分は美術界にも蔓延し
 ているか。

かつて土地の記憶を絵筆に託したのは名もなき絵師たちだ。いや、絵師でもなかったか
 もしれない。それを描く必要のあったものたちが必要にかられて生み出した。絵画とは
 本来それだけのものだろうと思う。洞窟の奥にバイソンの群れを描いた旧石器の時代か
 ら何も変わらない。しかし、そんなあたりまえのことを行うのにひどく困難を感じる奇
 妙な時空にいまの私はいる。

今回の作品ではまず「かりすま」という物語をつくり、それを様々な絵画形式での表出
 を試みた。

永遠に続くかとおもわれる戦後日本という忘却と停滞の空間。そこ以外に私のフィー
 ルドはありえず、その不毛な土地に鋤を入れ続けることでしか絵を描くというリアリ
 ティには到達できないのだと、神の圧倒的な沈黙の前で絶望するヨブの悲痛な叫びを遠くに
 聞きながら小さな諦念と共に絵筆を置くのだ、今日も。

2014年立冬

岩熊力也

